

夏の雨相



夏の夜、月の光が地面や草を白々と照らし、さながら霜を置いたように見えることを言います。

日中の暑さを忘れる、夏の短夜の風景。

京都の暑い夏を過ぎす上で、様々な工夫を凝らし涼しげに暮らす京都人。畑のねぎたちも、夏の霜も含み涼を探していることでしょう。



夏の季節中、私たちにあって台風シーズンでもありません。昨年の一畝収穫などの取り組みの経験値も蓄え、いっしょに台風が発生しても次々に取り掛かれますように心の準備はバッチリです。

夏の生産地はどこも広さのある畑が多く、広大なねぎ畑を望みつつ畑に足を踏み入れます。夏場の京都では、夏葱の生産が難しく作り手も多くはありません。安定してお届けできるよう努めています。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

冷涼な気候で育った、夏葱のお届けです

8月は、丹後・美山・亀岡での生産がメイン圃場となります。

5月上旬頃に定植を行った苗たちは雨を適度にもらい、すくすくと育ちました。そのおかげで、8月に収穫する予定のねぎの半分ぐらいが、7月中旬には収穫できる大きさまで成長したので、逆に少し困るぐらいでした。いつもより立派に育ったねぎ

たち、収穫後は保冷車に入れて工場まで運び、鮮度ある状態を保っています。美味しい状態でお届けできるようにと夏のひと手間とこだわり。自慢の夏葱、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE農業！の現場の「こと」を発信

今年の夏事情と、新農人たちの成長

今年は、例年に比べて梅雨が極端に短い年。梅雨明けが早かったですね。気温も高く、水不足が深刻な問題になりました。幸い、マルチ栽培していることもあり、九条ねぎの栽培にとって大きな影響はありませんでしたが、梅雨が明けた後の7月に雨が多くなり、昨年の長雨を思い出す気候になりました。畑のねぎたちを台風から守る戦いの他に、草との戦いも厳しくなっています。少しでも油断すると、勢いよく雑草が生い茂り、その後の処置が大変になります。農人一同、ねぎの世話の合間をみて、先手先手で草処理を行えるように協力あっています。

4月に入社した収穫業務配属の農人3名も、収穫業務での当日責任者である『仕切り』という担当を任せられるようになりました。これまでは、ひたすら効率の良さを習得しながら収穫するだけでしたが、チームで働く上での段取りを考える必要があり、新たなやりがいをもって取り組んでくれています。新たな発見もあるようで、この夏を切磋琢磨して乗り越えていきます！



— とある日の農人日記。 —

今年余剰となった畑のねぎと、連作障害対策として育てたひまわりの無人販売を始めてみました。地元の方に好評で、地域貢献できた事、また、食品ロスの対策に繋がった事は大変嬉しく思いました。

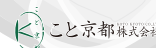
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.183

2022年8月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A



こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。



昨年作った横断幕、今年も台風シーズンに揚げで頑張ります！